

# 令和2年度 事業報告書

特定非営利活動法人 color

1. 児童発達支援センター 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 居宅訪問型児童発達支援	児童発達支援センター くるーる
2. 児童発達支援事業 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援	みずたま
3. 相談支援事業 特定相談支援事業 障害児相談支援事業	相談支援センター さくら
4. 日中一時支援事業	そらのいろ そらのいろ・くるーる
5. 基本相談 高梁市障害者相談支援事業 巡回支援専門員整備に係る業務委託	たかはし障害者総合相談センター レイユール 相談支援センター さくら たかはし発達障害者支援センター
6. 放課後児童健全育成事業	まーぶる
7. 学習支援塾	さいさい
8. その他法人事業  自発的活動支援事業	いろいろ

## 1. 児童発達支援センター くるーる

### (1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
①児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	24人
②放課後等デイサービス	月～土曜日	9:00-15:30	24人
③居宅訪問型児童発達支援	月～土曜日	9:00-15:30	
④保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00-17:30	

### (2) 各事業目標および結果

①児童発達支援	【結果】
利用目標人数(延べ)： 6,581人	利用人数：6,468人 契約人数： 78人
2～3歳児の利用が増え、1日の療育支援を希望する児童が増えてきている。クラス数を増やし、個別に応じた支援ができるようにする。就園、就学にあたっては、所属先と情報共有をしながら必要な予告・準備をしていく。	低年齢児の利用が増えクラスを1クラス増やし4クラスにし、個の発達段階を踏まえ、課題に対して個別に対応できた。就園、就学に向けて関係機関と連携を取りながら移行支援を行った。保護者に対してニーズの聞き取りが浅く、課題が明確にならないことがあるため、保護者や関係機関と情報を共有しながら支援を行っていく。
②放課後等デイサービス	
利用目標人数(延べ)： 376人	利用人数：364人 契約人数：24人
小学校の状況を確認し、他児との関わり方や学習理解、学校行事への参加など個々に困っていることを確認していく。また、個々の社会性の段階に応じて必要な支援をしていく。	家庭や園からのニーズが上がり、課題を設定し、課題達成に向け取り組むことができた。児童発達支援サービスから放課後等デイサービスに移時、利用人数が増え毎週利用を希望される方に対して、意向に副えず隔週利用になることもあった。他事業所への移行も含め対応していく。
③居宅訪問型児童発達支援	
利用目標人数(延べ)： 10人	利用人数：0人 契約人数：0人
保健師さんと情報を共有し、対象となる児童がいる場合は積極的に受け入れができるように体制を整えていく。個々の興味や娯楽などを確認し支援していく。	今年度の利用はなし。対象となる児童がいれば受け入れしていく。
④保育所等訪問支援	
利用目標人数(延べ)： 240人	利用人数：114人 契約人数：18人
保育所等での具体的な姿を確認した上で、くるーる内でできるようになったことを活かすことができるように具体的な支援方法について提示していく。また、先生とも情報共有を行うことでそれぞれの所属先の状況に合わせた支援方法を提示できるようにする。	園や学校の様子や事業所での取り組みを情報共有した。訪問支援をすることにより、事業所で活用している支援を園や学校でも同じように活用する事ができ、集団の中で無理なく過ごすことができるようになった。保護者の不安と先生の困り感の相違があり、調整が必要なケースもあった。

(3) スタッフ研修

実施計画:月2回程度	第2・4 土曜日
苦情や、ヒヤリハットなどをくるーる全体で確認していくことにより再発防止に努める。また、各クラスで対応困難ケースについては、支援方法についてアイデアの共有をすることでよりよい支援につなげることができるようになる。	くるーる内での苦情、ヒヤリハットなどを確認し再発防止に努めている。また、くるーる内で支援方法や方向性について共有することができるように話し合いを定期的実施するようにした。

(4) 関係機関連携

スクラム会議 220回/年 実施予定	実施回数 210回(会議加算分のみ)
くるーる内での具体的な支援方法や課題などを共有することで今後の支援目標について家族や所属園・校と共有できるようにする。会議には、さまざまなスタッフが参加することにより、どのスタッフでも子どもの様子を伝えられるスキルを持つとともに所属の先生と顔を合わせる機会を増やしていく。	スクラム会議では、家庭や園などの様子や課題を確認することができた。関係機関と課題を共有することで、支援計画の目標設定を明確にすることができた。 活動の報告、情報提供にとどまらず具体的に子どもの様子を伝えるように努めた。

## 2. みずたま

### (1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
①児童発達支援	月～土曜日	13:00～19:00	10名
②放課後等デイサービス	月～土曜日	13:00～19:00	10名
③保育所等訪問支援	月～土曜日	8:00～18:00	10名

### (2) 各事業目標

①児童発達支援	【結果】
<p>利用目標人数(延べ)：14人／年</p> <p>就学後を見据え9月頃からニーズに合わせみずたまへの移行を進めていく。くるーるや保護者との連携を密に取り、スムーズに前事業所の様子や課題を確認できるようにする。就学に向けて保護者の不安を確認し、自立的にできることが増えるように支援していく。</p>	<p>利用人数：133人</p> <p>契約人数：5人</p> <p>保護者とは情報の共有を密に行い、随時支援に反映させることができた。訪問の要望が早くから出ていたが、実際に訪問するまでに時間がかかってしまったため、来年度は速やかに連携を取って、関係機関との連携を密に取っていきたい。</p>
②放課後等デイサービス	
<p>利用目標人数(延べ)：3,234人／年</p> <p>継続して利用する児童が増えている。中学生の利用児が少しずつ増えてきているため、中学校で起こりうる課題をスタッフが十分に確認し、対応できるようにしていく。また、利用児が相談できる場所として認識できるように環境を整え、聴き取りの方法についても工夫していく。</p>	<p>利用人数：3,116人</p> <p>契約人数：76人</p> <p>児童がしやすいスタッフに絞って対応したり、個室で対応したりすることで、相談できる環境づくりができた。大きな変化があった時など、会議以外でも学校の先生と電話で情報を交換していた。学校側の捉えや雰囲気等聞くことができ、本人に起こっている状況をより把握し、支援に繋げることができた。</p>
③保育所等訪問支援	
<p>利用目標人数(延べ)：250人／年</p> <p>訪問した際の様子や療育での取り組み、普段の様子を訪問先の支援者と共有し、計画を具体的に立てていく。みずたま内でできた方法を伝えながら、学校等でできる対応方法も検討していく。振り返りも十分に大内、次の支援へつなげることができるようにする。</p>	<p>利用人数：195人</p> <p>契約人数：36人</p> <p>困っている状況に応じて保護者と相談し、訪問の日数を調整し、関係機関との連携を深め、支援した。授業の前にあらかじめ先生と情報を交換し、共通の手立てや支援を行うことができた。スタッフ間の情報の共有を更に密にすることで、どのスタッフも同じように支援できるようにしていく。</p>

### (3) スタッフ研修

<p>翌日の振り返りを必ず行い、支援計画と照らし合わせて現状の共有と、課題の整理をスタッフ全員で行う。整理した課題を支援計画にも反映させていく。</p> <p>中学生の利用児が増えてきているため、思春期に見られる性の課題や告知についても対応できるように研修をしていく。</p>	<p>昨年度までは、引継ぎが十分に行えなかったものは、各々で課題の設定をしていたが、今年度は必ず全員で引継ぎを行い、次回の方針等検討した。複数人で検討することにより、気づきが多くなった。重松先生に思春期について話を聞き、思春期での困りごとなど整理することができた。保護者とも思春期支援について共有し、将来を見据えた自己理解を更にすすめていきたい。</p>
--	---

### (4) 関係機関連携

<p>スクラム会議 290回／年 実施予定</p> <p>概ね4ヶ月から6ヶ月に1回程度でスクラム会議を実施している。場所ごとの現状を把握することで、課題を明確にしていく。中学校との関係づくりができるように取り組んでいく。利用終了後も相談を受けることができるように支援していく。</p>	<p>実施回数 198回／年(会議加算分のみ)</p> <p>関係機関の現状を把握することで、より支援計画に反映させることができた。現場のスタッフの参加の頻度を上げて、直接意見を交換する機会を増やしていきたい。</p>
---	---

### 3. 相談支援センター さくら

#### (1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間
①特定相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00
②障害児相談支援事業	月～土曜日	9:00～17:00

※上記以外の時間については、携帯電話で対応する。

#### (2) 各事業目標

①特定相談支援事業	【結果】
<p>契約目標人数： 5人(継続も含む)</p> <p>colorを利用されていた方に限らず、さまざまな方への支援ができるようにする。(新規2名)</p> <p>成人の事業所の見学(3カ所以上)へ行き、より多くの情報を収集する。</p>	<p>契約人数：6人</p> <p>福祉課や市外の相談支援事業所等からの紹介により徐々に成人の方の相談も増えてきている。(6名)</p> <p>高梁市市内の福祉事業所へ見学に行き地域の社会資源を知る機会となった。</p>
②障害児相談支援事業	
<p>契約目標人数： 200人(継続も含む)</p> <p>利用開始後3ヶ月は必ず毎月モニタリングを実施しサービスの提供状況や利用者のニーズに合っているか確認する。また、利用事業所へ必ず一人1回/年は訪問しサービス利用時の子どもの状況を確認する。</p> <p>家族支援が必要な場合は、基本相談の相談員と協力して相談支援を行う。</p>	<p>契約人数：182人</p> <p>利用開始後は毎月モニタリングを実施し状況の確認ができています。モニタリングの頻度が増えたことで事業所への訪問の回数は減ってきています。今後、保護者の聞き取りだけでなく実際のサービス提供時の様子も確認していく。</p> <p>虐待を疑われるケース等については保健師、児童相談所等とケース検討をすることができています。</p>

#### (3) スタッフ研修

<p>月1回</p> <p>相談支援専門員が複数名になっていることから、必ず月に1回はスタッフ間会議を設定し、情報を共有する。困難ケースについて今後の方向性を確認する。</p> <p>各相談員 2回以上/年外部研修へ参加する。外部研修の内容はスタッフ研修で共有する。</p>	<p>概ね月に1回集まり現状の確認、ケースの検討を実施することができた。相談員一人でケース対応をすることが多いため今後も複数の相談員で検討していくようにしていく。外部研修は新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加できにくかった。来年度はオンラインなども活用しながら参加していきたい。</p>
---	---

#### (4) 関係機関連携

<p>スクラム会議 600回/年 実施予定</p> <p>情報の共有のみにとどまらず、今後の課題や役割の確認ができるように会議を進めていく。</p> <p>時間を厳守し、関係機関の負担にならないよう配慮する。会議日程や参加者等についても直前で保護者に確認するなどミスのないように配慮していく。</p> <p>事業所や園、学校に積極的に訪問し日常の様子についても確認する。</p>	<p>514回(就学前:204回/就学後:310回)</p> <p>今年度は新たに相談員を配置したため、会議での役割、確認する内容について定期の会議で確認しながら実施している。関係機関から会議以外でも情報共有をしながら利用児(者)や家族の状況を確認することができた。</p> <p>日程の確認ミスや保護者が忘れていたことは数度あったため今後も声掛け等を行っていく。</p>
---	--

#### 4. ぞらのいろ ぞらのいろ・くるーる

##### (1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
ぞらのいろ	月～土曜日	7:30～18:30	15名程度
ぞらのいろ・くるーる	月～土曜日	7:30～18:30	15名程度

##### (2) 各事業目標（契約者数 ぞらのいろ：98人 ぞらのいろ・くるーる：87人）

①放課後利用	
個別のスケジュールを提示し見通しを持って過ごせるようにする。また、放課後の活動を事前に準備し、提供できるようにする。子ども達の気になった様子や発言、保護者からの相談等をケースに記載し、情報を共有していく。スタッフ一人ひとりが、エリアの目的やルールを理解し支援することができるようになる。	個別スケジュールと全体提示のスケジュールとを提示することで、次に何をすればよいのかを分かりやすく伝えることができた。また、事前に活動の準備をすることで、活動を楽しみにして参加してくれていた。 スタッフ一人一人がエリアの目的やルール、個別対応の方法等を理解できるように情報の共有に努めたものの、共通した支援についてまだ課題がみられている。
②土曜日、長期休暇等利用	
予約表については、できる限り具体的な活動内容を記載するようにし、利用したいと思ってもらえるようにしていく。	活動内容による利用の希望ではなく、保護者の就労支援のための利用が主であった。家庭で過ごせる児童も増え、利用児数は減少している。
③送迎利用	
安全面に十分配慮し、その上で、個々にあった支援を用いて送迎を行っていく。他事業所と連携し、手立てや支援方法を検討していく（そらたま会議等で）。 予約表を確実に提出してもらえるように声掛けや掲示を行い、送迎のミスがないように取り組んでいく。書類の提出に支援が必要な家族については個別で対応していく。	送迎のニーズは高くなっている。安全面に十分配慮し、他事業所と連携し、手立てや支援方法をしながら送迎を行った。個々に合った手立てやスケジュール等を提示することで、必要な支援を意識できるようになっている。車両事故は数度見られているため、今後も注意が必要である。 予約表の提出については、声掛けやその場で記入してもらうことで提出してもらえる様になって来た。

### (3) スタッフ研修

<p>前日の子どもの様子等の報告、当日の送迎の確認を毎日行うことで、支援方法について常に共有できるようにする。(土曜日・長期休みも行えるような体制を整えるようにする)毎週月曜日の午前中に一週間の活動を検討する。</p> <p>法人内のスタッフ研修に必ず4名は参加できるようにする。月2回、みずたまと合同で会議を実施する。具体的な支援方法を検討、実施し、次回の会議でモニタリングしていく。また、そらのいろいろの支援計画(そらのいろいろ利用児のみから)を作成し、スタッフが個別支援についてその利用児を通して学んでいく。</p>	<p>午前中に前日の子どもの様子保護者からの相談等の報告や送迎の確認等を行うことができた。しかし、土、祝日、長期休みは、行うことができなかった。伊賀町の朝礼にはスタッフ1名は参加することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・法人内の研修については、概ね4名参加することができた。</li><li>・そらたま会議については、その子の背景から見える行動について、どの様に関わって行けば良いのか、具体的な支援の方法はどの様な物があるのか等を話し合うことができ、実行に移すことができた。</li><li>・そらのいろいろ支援計画作成については、実行することができなかった。</li></ul>
---	--

### (4) 関係機関連携

<p>スクラム会議には、そらのいろいろのみ利用児の会議には参加できるようにする。また、他事業所を併用している児童についても可能な限り参加するようにする。参加できない場合は、各事業所に利用児の情報を伝えるようにする。スクラム会議後に情報を各事業所に確認できるようにしていく。会議であがった課題については、そらたま会議等で検討していく。</p>	<p>そらのいろいろ利用のみの児のスクラム会議には、概ね参加することができた。また、放デイや児発を利用してのスクラム会議については、そらのいろいろの利用時の様子等をまとめ情報として伝えた。会議後の共有や検討については、朝礼時、そらたま会議等で行った。</p>
--	---



## 5. レイユール(たかはし発達障害者支援センター・相談支援センター さくら)

### (1) 営業日・時間

	営業日	営業時間
レイユール	月～金曜日	9:00～17:00

### (2) 各支援目標

<p>①巡回支援(小中学校、高校、学童)</p> <p>情報交換会に参加し、福祉サービスにつながっていないケースについて状況を確認し、必要に応じて福祉サービスや相談機関を紹介する。</p> <p>学童や学校等へ巡回し、市内の課題を確認する。課題については自立支援協議会で共有していく。また、総合相談センターについて関係機関が周知できるように情報提供していく。</p>	<p>【結果】8歳未満 22名</p> <p>情報交換会については、事前訪問後、会への参加することで、対象となる児の様子を把握した上で検討することができた。また、各関係機関の役割や方向性等を確認し合える場となった。情報交換会やスクラム会議をきっかけに園等へ訪問を定期的に行い、支援方法や児の特性の整理を行うことができた。</p>
<p>②個別支援(児童:25名 成人:15名)</p> <p>年齢、障害種別に関わらず相談を受けることができる体制を整えていく。特に引きこもりのケースについては丁寧に関わっていくことにより市内の引きこもりケースの減少につながるようにする。</p> <p>虐待ケースについて児童相談所と連携し、永続的に見守っていくことにより虐待予防、虐待連鎖の防止につなげる。</p>	<p>18歳以上 11名</p> <p>年齢、障害種別に関わらず相談者からの相談を4事業所のスタッフで対応する体制が整いつつあった。</p> <p>引きこもりケースについては、家族、地域等からの相談が、地区保健師の方へ入り、それを受けて対応した。しかし、相談者との関係が構築されない中での対応のため繋がらないケースもあった。</p> <p>虐待ケースについては、こども未来課、児童相談所、福祉サービス等の関係機関と連携しながら対応した。</p>

### (3) スタッフ研修

<p>複数のスタッフが配属されることから、月に1回以上スタッフ間会議を設定する。一人でケースを抱え込むことのないように注意していく。</p> <p>外部研修については、各スタッフで今年度重点とするテーマを確認し参加していくようにする。それぞれの知識、支援技術を高めることができるようにする。研修の内容についてはスタッフ間研修で共有していく。</p>	<p>ケース検討会議を月4回(火、木)で行った。複数のスタッフで検討をすることで、意見や情報を出し合うことで、方向性を見出すことができた。</p> <p>外部研修については、オンライン等で参加した。また、市主催の虐待研修を受け、相談センター内で共有した。</p>
--	---

(4) 関係機関連携

スクラム会議 140回／年 実施予定	スクラム会議 131回
<p>幼児期、学童期に関わらず高梁市においてスクラム会議が実施されることが当たり前となるように関係機関と周知していく。会議をする意義を明確に伝え、共通の目的をもって会議へ参加することができるように調整していく。</p> <p>I型については、具体的な方向性はみられていないもののcolorとして相談の役割を持つことができるような体制を整えていく。</p>	<p>成人期（就労先等）のスクラム会議の実施は、数件程度あり、まだ、周知されていない感じも見受けられる。自立支援協議会の部会等を活用し、スクラム会議をする目的や意義を伝えていき成人期の方のスクラム会議開催に繋げていきたい。</p> <p>I型についての方向性は明確になっていない。しかし、Ⅲ型との定期的なケース検討会議に参加することができ、今まで確認できていなかったケースの確認や状況を知ることができた。Ⅲ型の中には、相談センターの役割をまだ理解してもらえない作業所もあるが、今後も継続的に関わっていく。</p>

## 6. まーぶる

### (1) 営業日・時間および定員

	営業日	営業時間	定員
まーぶる	月～土曜日	7:30～18:30	8名程度

### (2) 各事業目標 契約人数:8名

①放課後利用	【結果】
<p>月に1回、まーぶる会議(利用児主体)を開き、その月の活動内容や学童内での情報交換を行っていく。放課後のスケジュールを提示していき、子ども達が見通しを持って安心して過ごせるようにする。</p> <p>子ども達が楽しみにして事業所に帰って来られるように放課後の活動を準備し提供できるようにする。子ども達の気になった様子や発言、保護者からの相談等をケースに記載することができるようにする。</p>	<p>まーぶる会議について、前半(1学期と2学期前半)は月1回開催することができていた。しかし、後半になると子ども全員が揃うことがなくなったため、利用が比較的多い時に意見や案を確認している。</p> <p>当日スケジュールについては、ホワイトボードに記載をして伝える様にした。レクリエーションや工作活動を楽しみに利用してくれていた。</p> <p>ケースへの記載は、当日の様子だけでなく保護者からの相談等も記載した。クラブ会議にも参加し学校等と情報共有をしている。</p>
②土曜日、長期休暇等利用	
<p>土曜日利用については、子ども達の選択によって活動を提供していく。</p> <p>長期休みについては、長期休みのみの利用児童が増えるため、長期休暇前に事前に保護者と一緒に見学に来て頂き、学童でのルールや約束を説明していく。一日のスケジュールを提示し、子ども達が見通しを持って自立的に行動ができるようにする。</p>	<p>土曜日利用については、1名のみの利用であった。そらのいろの活動と一緒に参加し過ごすことが多かった。</p> <p>長期休みについては、7名の利用であった。今年度は、コロナ禍で、学校のプールが利用中止となったこともあり、どの様な活動を提供することができるかを検討していくことが大変であった。周辺の公園や川などで活動している。</p>
③送迎利用	
<p>平日の利用時、保護者、本人からの相談や希望に応じて市内小学校への迎えを実施できるようにする。</p>	<p>基本的には、徒歩で学童に帰ってくることを事前に保護者に伝えている。しかし、様々な理由により、一時的に送迎利用する場合もあった。次年度は、再度送迎についての説明を行う予定にしている。</p>

### (3) スタッフ研修

<p>毎週月曜日の午前中に一週間の活動を検討する。法人内のスタッフ研修に必ず参加できるようにする。</p> <p>高梁市の実施する研修にも積極的に参加し、他の学童スタッフとも情報交換ができるようにする。</p>	<p>そらのいろのスタッフと一緒に活動を検討することができた。また、法人内の研修にも参加し学ぶことができた。</p> <p>今年度は、コロナ禍のため学童研修全てが中止となり、他の学童との交流や情報交換ができなかった。</p>
---	--

#### (4) 関係機関連携

<p>所属する学校や担当課とも情報を共有し、連携を図っていく。療育を利用している児童については、スクラム会議への参加をしていく。また、療育利用ではない児童については、保護者や学校と連携し情報の共有を図っていく。</p>	<p>虐待登録ケース児について関係機関での情報共有や役割の確認を行った。また、スクラム会議にも参加することができた。保護者や学校、関係機関と連携し情報の共有を図っていくこともできた。</p>
---	---

#### 7. 学習支援塾 さいさい

<p>学習面で課題を感じている児童を対象に、療育とは別枠で個別指導を行う。 療育内でサポートできない内容をさいさいで取り組む。</p>	<p>令和2年度はプレオープンとして開始。1人当たり、30分で7名が利用した。塾講師は井原市の元校長(岡本先生)。保護者を含めた面談を行い、ニーズを確認した上で取り組んでいる。人数が少ないことと時間の短さから比較的勉強に集中しにくい児童も楽しみながら勉強に取り組むことができた。また、思った以上に良い反響が得られた。来年度は人数の枠を増やし取り組みたい。</p>
---	---

## 8. その他 法人事業

### (1) 各事業目標

①スタンプラリー	
利用目標人数	感染症の影響を考慮し、開催中止
中止	
②夏祭り	
利用目標人数	感染症の影響を考慮し、開催中止
中止	
③Winter Festival	
利用目標人数 200人	感染症の影響を考慮し、開催中止
(高梁市地域提案型助成金事業対象) 前年度の助成事業を今年度も申請予定。新型コロナウイルスの影響によっては開催も危ぶまれるが、前年度活動の老人クラブでの活動紹介やイベント協力に加え、積極的に利用者家族の参加を促す機会にしていきたい。	助成金事業としてイベントを計画していたが、イベント開催が困難となり、助成金事業も中止扱いとなった。しかしながら、活動を知った保健師から愛育委員を対象に療育紹介の依頼を受け、実施。color の活動や療育の目的等について、知ってもらう機会を得た。参加者からも好評で、個別で質問を受けた。今後も同様な場を設けていきたい。
④一時預かり事業 いろいろ	
利用目標人数(延べ) : 100人 登録者: 30名	実績 延べ211人 契約人数: 29人
広報活動を十分に行うことで、必要な方に情報がいきわたるように取り組んでいく。また、保育士の雇い入れを充実させることにより、利用児が楽しんで過ごせるように活動を充実させる。	R2年度で保育士(1名)増員。月に10日~15日程度開所した。定期的に利用している児童はある程度、固定のため、保育士らがさまざまな遊びの工夫をしながら、楽しく過ごしている。利用日数は現状程度が望ましい状態。
⑤スタッフ研修(内部)	
・自閉症研修(重松先生) 概ね隔月で実施 ・保護者・当事者研修 ・LD研修 ・スタッフによる研修(月1回以上) ・アセスメント研修	自閉症研修は、密を防ぐため会場を遊戯室にして間隔を取りながら開催している。自閉症の特性や学習スタイルなどを学ぶ機会となった。
⑥外部研修・講習会	
・児童発達支援管理責任者研修 ・相談支援専門員(初任者研修・現任研修・主任相談支援専門員研修) ・虐待研修 ・その他専門研修への参加	
さいさい	

### (2) その他

自発的活動支援事業 ・ペアレントトレーニング及びステップアップ講座	ペアレントトレーニングは、参加人数は少なかったが、参加者の話を時間をとって聞くことができた。どの参加
--------------------------------------	--

<p>・発達支援講習会</p>	<p>者も子どもの関りを知るよい機会になったと感じていた。</p> <p>発達支援講習会は、人数制限を行い小規模での開催となった。参加者からの質問に講師が答える形をとり保護者の不安を軽減できる機会となった。</p>
<p>親の会支援(ぶどうの会)</p>	<p>保護者の登録人数は18名。新型コロナウイルスの影響もあり開催できない月もあった。また、会場の貸し出しも困難な場合もあった。</p> <p>座談会では、保護者同士で園や学校での先生との関係や就学についてなどの話をする事ができている。</p>
<p>高梁市自立支援協議会(児童部会、就労部会)</p>	<p>協議会の各部会に参加している。コロナ渦であったこともありイベント等は開催できていない。</p> <p>児童部会では、高梁市における支援体制の確認や成長記録ファイルの活用に関するアンケートを実施している。</p> <p>就労部会では、毎年行っていた面接会などは開催できていないが、規模を縮小した上で授産品の販売を行っている。</p>